土木学会北海道支部における若手技術者交流サロンの経緯と今後の課題

東京工業大学 環境・社会理工学院 正会員 ○山田菊子

1. はじめに

土木学会北海道支部では、若手技術者の活動の活性化や学会員の交流を目指して、2013年度から2017年度にかけて4回の「若手技術者交流サロン」(以下「サロン」)を開催した。本稿では、プログラムの改善に資する情報を整理することを目的として、サロン実施に至る背景、北海道支部における各回の概要を紹介し、4回の開催による成果と今後の課題について考察する。

2. サロンの経緯

(1) 土木学会100周年事業

サロンは土木学会100周年事業として始まった。「若手土木技術者の交流サロン」という名称のみ指定され2013、2014年度に予算が配分された。この2か年については、土木学会100周年事業のサイト¹⁾に、告知と報告がアーカイブされ、8支部のうち6支部で15回開催されたことが確認できる。

(2) 100周年事業後の各支部におけるサロン

各支部のウェブサイトからは、100周年事業が終了したのち、2016年度からは各支部が独自の財源により実施していることが確認できる。

東北支部は土木技術者女性の会等と共催し、女性技術者を対象として一泊二日の現場見学会を開催した。関東支部は学生を対象として、不安や疑問について若手技術者とともに自由に議論する機会を設けている。2017年10月に支部幹事と若手技術者が大学に出張する形式で開催した。中国支部では子育て中の離職をテーマとし、若手技術者、高専、大学の学生が参加し、講演、自由討議やスピーチを行った。西部支部では、若手技術者の講演、学生と若手技術者の座談会からなる「若手交流サロン」として継続している。

3. 北海道支部におけるサロン

北海道支部では4回を通じ同じ形式を採用している(表-1)。すなわち、学生4名、若手技術者1名、ファシリテータ1名からなるグループを4つ組成し、グループごとに自由討議を行うワークショップを行うものがある。北海道内の大学及び高専に在学中の学部及び大学院の学生を対象とし、若手技術者とともにファシリテータが進行する。学生、若手技術者は支部幹事等が推薦する。

およそ3時間弱をかけて、(1)趣旨説明、(2)グループによる討議、(3)結果の共有を行う。また終了後には、参加者

表-1 北海道支部における若手技術者交流サロンの概要

項目	内容
参加者数	約24名(4班×(学生4,若手技術者1,ファシリテータ1))
参加学生	北海道内の各大学の学部・大学院学生,高専の学生。いずれも教員に選出を依頼
若手技術者	支部幹事の紹介
所要時間	概ね3時間
基本的な形式	自由討議,発表
発言の記録	模造紙,付箋紙,筆記用具による。

表-2 各回の概要とテーマ

回数	会場・開催日	議論のテーマ
第1回	札幌市 2014-02-02	(a) 将来に伝えたい技術とは、どのような技術か/ (b) 将来、土木技術者として、どのように社会に貢献したいか
第2回	室蘭工業大学 2015-01-31	土木学会のイメージアップ戦略
第3回	北海道大学 2016-01-30	土木の世界で働くとは
第4回	札幌市 2017-11-17	未来の北海道のために土木の力でやりたいこと

全員に対しアンケート調査を実施し、5段階でサロン全体の評価をさせるとともに、意見や改善のための提案を自由記述させる。自由記述は、「感想」と「意見・要望」に分けて整理、共有し、次回開催時の参考としている。

各回の実施概要とテーマを示す(表-2)。

(1) 第1回:2014年2月2日

100周年事業の一環とし、年次技術研究発表会(通称「支部論」)のプログラムに組み込んだ。これは遠方からの学生も参加しやすくするためである。まず、支部幹事長が「北海道の現況について」と題する10分ほどの情報提供を行い、現在の支部を巡る環境に対する認識を共有した。その後、ワークショップを35分、結果の共有を20分程度行った。

各グループには、2名の若手技術者、1名のファシリテータを、建設会社あるいはコンサルタント、行政、研究機関が満遍なく含まれるように配置した。また、学生、社会人にかかわらず女性が一人以上含まれるようにした。2つのテーマを用意しどちらかを支部幹事が指定した。